

研究論文

大学生はどのようにマンガを読んでいるのか

吉 田 佐治子

How Does University Student Read Manga?

Sachiko YOSHIDA

【要 約】

大学生を対象に、普段どのようにマンガを読んでいるかを調査し、マンガに対する態度、マンガとの関わり方、マンガの優先順位、マンガ読書量を検討した。その結果、マンガに対する態度によって、マンガとの関わり方、マンガの優先順位、マンガ読書量が異なることが見出された。マンガ読書量については、全体としては多いとはいえないが、特にマンガ雑誌はあまり読まれていなかった。また、大多数は適度にマンガを読んでいるが、マンガを大量に読む者とマンガを全く読まない者とが少数いることが示された。

はじめに

大学生の「読書離れ」がいわゆるようになって久しい。実際に大学生と接している実感や同僚らとの会話からしても、“今更”感のある話題ではある。

毎年実施されている小・中・高生を対象とした「学校読書調査」では、1ヶ月の不読率（本を読んだ冊数が0）は、2000年頃から減少傾向にあるものの、2013年の調査では、高校生の45%が、1ヶ月に全く本を読んでいない（毎日新聞2013年10月27日東京朝刊）。高校生のすべてが大学生になるわけではないながらも、この調査結果から、大学生にも一定の割合で不読者がいることが予想される。実際に、堀ら（2000）の調査では、2000年における大学生の不読率は26.4%であり（同年の高校生の不読率は58.8%）、大学生の4人に1人は、1ヶ月に1冊も本を読んでいない。さらに、「1冊」と答えた学生も含めると、約半数の大学生が、1ヶ月に1冊以下しか本を読んでいないのである。この結果はしかし、半数の大学生は、ある程度の読書をしているとも読める。平山（2008）は、時間の使い方に着目し、大学生読者の類型化を行っている。平山によると、約半数の大学生はほとんど読書をしないが、残り半数は、読書時間の特徴、読書の目的、読書量などに違いはあるが読書をする。つまり、大学生は、本を読む大学生と本を読まない大学生に分けられるのである。全く本を読まない大学生がいる一方で、読書が生活の中に根付いている大学生もいるということである。

さて、こども、あるいは若者が「本を読まない」ことについての“悪役”は、以前は、テレビとマンガであった。それが、昨今はインターネット（携帯電話を含む）とゲームに取って代わられた感がある。

現在、マンガは以前ほど読まれなくなっている。出版科学研究所（2012）によると、2011年において、マンガ雑誌とマンガ単行本を合わせた販売部数は、全出版物の約3分の1を占めているが、マンガ全体の売上は1995年を境に減少し続けている。特に、マンガ雑誌の売上減少が大きく、1978年にはマンガ単行本の3倍ほどであったのが、2005年には逆転している（マンガ単行本は2005年以降ほぼ横ばいである）。実際、電車の中でマンガを読む人を見かけることは少なくなったし、学生と話していても“マンガを読んでいない”ということが感じられる。筆者が以前行った大学生を対象としたマンガに関する調査（未公表）では、「文字が少ないから、マンガの中でもスポーツマンガが好きだ」という回答があった。一昔前は、「大学生がマンガなど読んでいては……」「本も読まずにマンガばかり」という嘆きがきかれたが、今や大学生は、マンガ“すら”読まなくなっているのかもしれない。

「マンガは日本の文化である」とは、近年よく耳にする言説である。この可否はさておき、日本のマンガが現在のように発展してきた要因の1つに、マンガ雑誌の存在があげられよう。いくつもの連載マンガが1冊にまとめられ、定期的に刊行される。読者は次の発売日を心待ちにし、お気に入りのマンガが単行本になればそれを買って求める。どのような人気作であってもやがて連載は終わり、その代わりに新連載がはじまり、そしてまた人気作が出てくる。新たなマンガ家も登場する。このようなマンガ雑誌の売り上げが減少し続けているということは、大きな問題であるかもしれない。

先に、大学生の読書離れについて、本を読む大学生と本を読まない大学生とがいることを示

した。大学生の“マンガ離れ”についても同様のことがいえるのではないだろうか。すなわち、マンガを読む大学生とマンガを読まない大学生とがおり、マンガを全く読まない者がいる一方で熱心なマンガ読者もいるのではないだろうか。

本研究の目的は、大学生がマンガをどのように読んでいるのか、その実態の一部を明らかにすることである。

方法

【調査対象者】 大学生 191 名（男性 141 名，女性 50 名。平均年齢 18.7 歳）

【調査時期】 2013 年 7 月

【手続き】 調査は一斉に行われた。全体の所要時間は約 20 分であった。

【調査項目】 調査用紙は、呈示された図像に対するマンガらしさの評定、マンガらしさの基準の記述、普段のマンガとのつきあい方に関する質問の 3 つの部分からなっていた。本稿で報告するのは、普段のマンガとのつきあい方に関する質問のうち、以下の項目である。すなわち、①マンガを好きであるか、②マンガをどのように読んでいるか、③マンガの優先順位、④マンガを読む量、である。なお、この 4 つの質問と回答の選択肢を表 1 に示す。

結果

【マンガへの態度】 「マンガを好きであるか」に対する回答を表 2 に示す。 χ^2 検定の結果、人数の偏りは有意であった ($\chi^2(4)=152.534, p<.01$)。多重比較を行ったところ、「大好き」=「好き」>「どちらともいえない」=「嫌い」>「大嫌い」であり、マンガを「大好き」「好き」である対象者が多かった。なお、「大嫌い」と答えた人はいなかったため、この後の分析は、「大嫌い」のカテゴリを除外することとした。また、性差は認められなかった ($\chi^2(3)=1.379, ns$)。

【マンガの読み方】 「マンガをどのように読んでいるか」に対する回答を表 3 に示す。まず、全体について χ^2 検定を行ったところ、人数の偏りは有意であった ($\chi^2(7)=185.882, p<.01$)。次いで、マンガへの態度によってマンガの読み方に違いがあるかを検討したところ、人数の偏りは有意であった ($\chi^2(21)=191.152, p<.01$)。残差分析の結果、マンガを「大好き」なグループでは、「マンガを読まない」人が有意に少なく、「好き」なグループでは、「人に勧められたら読む」「映画やドラマになったら読む」人が多い傾向にあり、「読まない」人が有意に少なかった。「どちらともいえない」グループでは、「積極的に探す」人が少ない傾向にあり、「読まない」人が有意に多く、「嫌い」なグループでは、「楽しみなマンガがある」「積極的に探す」人が少ない傾向にあり、「読まない」人が有意に多かった。

【マンガの優先順位】 「マンガの優先順位」についての質問に対する回答を表 4 に示す。まず、全体について χ^2 検定を行ったところ、人数の偏りは有意であった ($\chi^2(6)=58.087, p<.01$)。次いで、マンガへの態度によってマンガの優先順位に違いがあるかを検討したところ、人数の偏りは有意であった ($\chi^2(18)=253.618, p<.01$)。残差分析の結果、マンガを「大好き」なグループでは、「何よりもマンガを優先する」「どうしてもしなければならないことがあるときを除

表1 質問項目と選択肢

<p>1.マンガはお好きですか? あてはまる番号に○をつけてください.</p> <ol style="list-style-type: none">1. 大好きである2. 好きである3. どちらともいえない4. 嫌いである5. 大嫌いである <p>2.マンガの読み方はどのようですか? あてはまるものすべてに○をつけてください.</p> <ol style="list-style-type: none">1. 現在,楽しみにしているマンガがある2. 自分から積極的に,新しいマンガやおもしろいマンガを探している3. 人に勧められたものは読む4. メディアで取り上げられたものは読む5. 映画やドラマになったものは読む6. 待合室など,そこにマンガがあれば読む7. 新聞の4コママンガ程度は読む8. マンガは読まない <p>3.他の趣味などと比べて,マンガの優先順位はどれくらいですか? 1つだけ選んでください.</p> <ol style="list-style-type: none">1. 何よりもマンガを優先する2. どうしてもしなければならぬことがあるときを除いて,マンガを優先する3. その時の気分によるが,マンガを優先することが多い4. その時の気分によるが,マンガ以外のことを優先することが多い5. どうしても読まなければならないマンガがあるときを除いて,その他のことを優先する6. 他に何もすることがないというときに限って,マンガを読む7. マンガは読まない <p>4.現在,あなたはマンガをどれくらい読んでいますか? 平均的なところをお答えください.</p> <p>・雑誌 <u>月に</u></p> <ol style="list-style-type: none">1. 0冊2. 1~4冊3. 5~8冊4. 9~12冊5. 13冊以上 <p>・単行本 <u>月に</u></p> <ol style="list-style-type: none">1. 0冊2. 1~4冊3. 5~8冊4. 9~12冊5. 13冊以上

表2 「マンガは好きか?」に対する回答

人(%)				
大好きである	好きである	どちらともいえない	嫌いである	大嫌いである
85 (44.5)	73 (38.2)	20 (10.5)	13 (6.8)	0 (0.0)

表3 「マンガをどのように読んでいるか?」に対する回答(複数回答)

人(%)								
	楽しみなマンガがある	積極的に探す	人に勧められたら	メディアに取り上げられたら	映画やドラマになったら	そこにあれば	新聞の4コママンガ程度	読まない
大好き	73 (85.9)	44 (51.8)	42 (49.4)	16 (18.8)	20 (23.5)	30 (35.3)	7 (8.2)	1 ** (1.2)
好き	43 (58.9)	23 (31.5)	34 + (46.6)	11 (15.1)	5 + (6.8)	16 (21.9)	4 (5.5)	2 * (2.7)
どちらともいえない	4 (20.7)	1 + (5.0)	4 (20.0)	2 (10.0)	2 (10.0)	3 (15.0)	0 (0.0)	8 ** (40.0)
嫌い	1 + (7.7)	0 + (0.0)	1 (7.7)	0 (0.0)	1 (7.7)	0 (0.0)	1 (7.7)	10 ** (76.9)
全体	121 (63.4)	68 (35.6)	81 (42.4)	29 (15.2)	28 (14.7)	49 (25.7)	12 (6.3)	21 (11.0)

+p<.10 *p<.05 **p<.01

表4 「マンガの優先順位」に対する回答

人(%)							
	何よりも優先	やむを得ない場合を除いて優先	優先することが多い	他のことを優先することが多い	やむを得ない場合を除いて他のことを優先	他のことがない場合のみマンガを読む	マンガは読まない
大好き	6 * (7.1)	8 ** (9.4)	37 * (43.5)	10 ** (11.8)	9 ** (10.6)	16 ** (18.8)	0 ** (0.0)
好き	0 (0.0)	3 ** (4.1)	11 (15.1)	27 ** (37.0)	12 * (16.4)	17 * (23.3)	3 (4.1)
どちらともいえない	0 (0.0)	0 ** (0.0)	0 * (0.0)	4 (20.0)	3 (15.0)	8 ** (40.0)	5 ** (25.0)
嫌い	0 (0.0)	0 ** (0.0)	0 + (0.0)	0 (0.0)	2 (15.4)	0 (0.0)	11 ** (84.6)
全体	6 (3.1)	11 (5.8)	48 (25.1)	41 (21.5)	26 (13.6)	41 (21.5)	19 (9.9)

+p<.10 *p<.05 **p<.01

いて、マンガを優先する」「その時の気分によるがマンガを優先することが多い」が有意に多く、「その時の気分によるが、マンガ以外のことを優先することが多い」「どうしても読まなければならないマンガがあるときを除いて、その他のことを優先する」「他に何もすることがないというときに限って、マンガを読む」「マンガは読まない」が有意に少なかった。「好き」なグループでは、「その時の気分によるが、マンガ以外のことを優先することが多い」「どうしても読まなければならないマンガがあるときを除いて、その他のことを優先する」「他に何もすることがないというときに限って、マンガを読む」が有意に多く、「どうしてもしなければならないことがあるときを除いて、マンガを優先する」が有意に少なかった。「どちらともいえない」グループでは、「他に何もすることがないというときに限って、マンガを読む」「マンガは読まない」が有意に多く、「どうしてもしなければならないことがあるときを除いて、マンガを優先する」

「その時の気分によるがマンガを優先することが多い」が有意に少なかった。「嫌い」なグループでは、「マンガは読まない」が有意に多く、「どうしてもしなければならぬことがあるときを除いて、マンガを優先する」が有意に少なく、「その時の気分によるがマンガを優先することが多い」が少ない傾向であった。

[マンガ読書量] 「マンガを読む量」にする回答を表5に示す。評定値の平均は、雑誌が1.85 (SD=0.83)、単行本が2.34 (SD=1.19)であった。両方に回答があった186名について対応のあるt検定を行ったところ、有意に単行本の方が多かった ($t(185)=6.112$, $p<.01$)。また、雑誌、単行本それぞれに χ^2 検定を行ったところ、人数の偏りは有意であった ($\chi^2(4)=208.222$, $p<.01$; $\chi^2(4)=100.777$, $p<.01$)。多重比較を行ったところ、雑誌については「1~4冊」>「0冊」>「5~8冊」=「9~12冊」=「13冊以上」であり、単行本については「1~4冊」は他のすべてより多く、「0冊」は「9~12冊」, 「13冊以上」より多く、「5~8冊」は「9~12冊」より多かった。

次に、マンガに対する態度によって、雑誌、単行本それぞれを読む量に違いがあるかを検討した(表6)。「大好き」では、雑誌、単行本とも人数の偏りは有意であった ($\chi^2(4)=83.446$, $p<.01$; $\chi^2(4)=33.262$, $p<.01$)。多重比較の結果、雑誌では、「1~4冊」は他より多く、「0冊」は「9~12冊」「13冊以上」より多かった。単行本では、「1~4冊」は「0冊」「9~12冊」より多く、「13冊以上」は「0冊」より多かった。「好き」では、雑誌、単行本とも人数の偏りは有意であった ($\chi^2(4)=101.315$, $p<.01$; $\chi^2(4)=85.831$, $p<.01$)。多重比較の結果、雑誌では、「1~4冊」>「0冊」=「5~8冊」=「9~12冊」=「13冊以上」であった。単行本では、「1~4冊」>「0冊」=「5~8冊」>「9~12冊」=「13冊以上」であった。「どちらともいえない」では、雑誌、単行本とも人数の偏りは有意であった ($\chi^2(4)=30.500$, $p<.01$; $\chi^2(4)=26.500$, $p<.01$)。多重比較の結果、雑誌では、「0冊」は「5~8冊」「9~12冊」「13冊以上」より多かった。単行本では、「0冊」は「5~8冊」「9~12冊」「13冊以上」より多かった。「嫌い」では、雑誌、単行本とも人数の偏りは有意であった ($\chi^2(4)=35.077$, $p<.01$; $\chi^2(4)=35.077$, $p<.01$)。多重比較の結果、雑誌では、「0冊」は「5~8冊」「9~12冊」「13冊以上」より多かった。単行本では、「0冊」は「5~8冊」「9~12冊」「13冊以上」より多かった。

雑誌を読む量と単行本を読む量との関係を見るために相関係数を算出したところ、 $r=0.469$ と中程度の相関があった。マンガに対する態度ごとに同様のことを行ったところ、「大好き」では $r=0.355$ 、「好き」では $r=0.424$ 、「どちらともいえない」では $r=0.085$ 、「嫌い」では $r=0.409$ であった。

表5「マンガをどれくらい読んでいるか?(1月あたり)」に対する回答

		人(%)				
		0冊	1~4冊	5~8冊	9~12冊	13冊以上
雑誌	63 (33.3)	104 (55.0)	14 (7.4)	3 (1.6)	5 (2.6)	
	43 (22.9)	88 (55.0)	28 (14.9)	9 (4.8)	20 (10.6)	

表6 マンガへの態度とマンガ読書量(1月あたり)

		人(%)				
		0冊	1~4冊	5~8冊	9~12冊	13冊以上
大好き	雑誌	19 (22.9)	48 (57.8)	8 (9.6)	3 (3.6)	5 (6.0)
	単行本	5 (6.0)	35 (41.7)	16 (19.0)	8 (9.5)	20 (23.8)
好き	雑誌	22 (30.1)	45 (61.6)	6 (8.2)	0 (0.0)	0 (0.0)
	単行本	16 (22.5)	43 (60.6)	11 (15.5)	1 (1.4)	0 (0.0)
どちらでもない	雑誌	11 (55.0)	9 (45.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)
	単行本	11 (55.0)	8 (40.0)	1 (5.0)	0 (0.0)	0 (0.0)
嫌い	雑誌	11 (84.6)	2 (15.4)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)
	単行本	11 (84.6)	2 (15.4)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)

雑誌を読む量と単行本を読む量との対応を表7に示す。 χ^2 検定を行ったところ、人数の偏りは有意であった ($\chi^2(16)=65.246, p<.01$)。残差分析の結果、「雑誌0冊・単行本0冊」「雑誌5~8冊・単行本13冊以上」「雑誌9~12冊・単行本13冊以上」「雑誌13冊以上・単行本13冊以上」が有意に多く、「雑誌0冊・単行本13冊以上」「雑誌1~4冊・単行本0冊」「雑誌5~8冊・単行本0冊」が有意に少なかった。また、「雑誌5~8冊・単行本5~8冊」が多い傾向、「雑誌0冊, 単行本5~8冊」が少ない傾向であった。マンガに対する態度ごとに同様のことを行ったところ、いずれも人数の偏りは有意ではなかった。

[マンガらしさの基準] マンガらしさの基準について、自由に記述してもらったが、回答があったのは73名であった。マンガへの態度によって記述の有無に差があるか χ^2 検定を行った結果、有意な差はなかった ($\chi^2(3)=3.121, ns$)。

表7 雑誌・単行本の読書量

		単行本					人(%)
		0冊	1~4冊	5~8冊	9~12冊	13冊以上	
雑誌	0冊	26 ** (14.0)	28 (15.1)	5 + (2.7)	2 (1.1)	2 * (1.1)	
	1~4冊	17 * (9.1)	53 (28.5)	18 (9.7)	6 (3.2)	8 (4.3)	
	5~8冊	0 * (0.0)	4 (2.2)	4 + (2.2)	1 (0.5)	4 * (2.2)	
	9~12冊	0 (0.0)	1 (0.5)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 ** (1.1)	
	13冊以上	0 (0.0)	1 (0.5)	0 (0.0)	0 (0.0)	4 ** (2.2)	

+p<.10 *p<.05 **p<.01

考察

8割を超える大学生が、マンガを「大好きである」、あるいは「好きである」と答えている。「大好きである」と回答した大学生が最多で、全体の約45%にのぼる。依然、マンガは人気があるといえる。一方で、「大嫌いである」と答えた者こそいなかったが、「嫌いである」との回答は約7%であり、少数ではあるが、マンガを嫌いな大学生もいることがわかる。

この、マンガに対する態度の違いは、実際のマンガを読むという行動に影響を与えている。

マンガが「大好き」な大学生は、楽しみにしているマンガがあり、新しいマンガ・おもしろいマンガを探している。また、人に勧められたり、メディアに取り上げられたり、映像化されたりしたマンガは読むなど、積極的にマンガと関わっている。「好き」と答えた大学生も、ほぼ同様であるが、映像化されたマンガを読む人は少ない傾向にある。「どちらともいえない」「嫌い」という大学生は、マンガ自体を読まない人が多く、自分からマンガを探すという人は少ない。「嫌い」な大学生では、これに加えて楽しみにしているマンガがあるという人も少ない。つまり、マンガと関わることがあまりないのである。

この違いは、マンガの優先順位をみるとより明確になる。調査対象者が大学生であることから考えて、学業をはじめ、課外活動やアルバイト、友人とのつきあいなど、“すべきこと”“したいこと”がたくさんあるはずである。そうした中で、マンガが「大好き」な大学生は、「何よりも優先」を含め、他のことよりもマンガを優先する人が多い。「好き」な大学生は、マンガよりも他のことを優先することが多く、「どちらともいえない」大学生は、他にすることがない場合のみにマンガを読む、マンガは読まないという人が多くなり、「嫌い」な大学生になると、マンガを読まない人が大半を占める。

マンガを「大好き」であるか、「好き」であるか。普段のマンガとの関わり方については、両者に大きな違いはないが、マンガをどれくらい優先するかについては、全く異なっている。「マンガが大好きだから、他のことよりもマンガを優先する」「マンガは好きだが、マンガより他のことを優先する」と解釈できるが、これは逆の見方もできる。マンガに対する態度を自問する

とき、普段自分がどのようにマンガを読んでいるかを思い起こしているのではないか。そして、他のことよりもマンガを優先している自分に気づき、「大好き」と自認する。そのような捉え方もできよう。今回の分析では、そこまで検討することはできなかったが、マンガに対する態度への回答が、何に影響されているのかを、今後探っていきたい。

マンガの売り上げが減少し続けており、特に、マンガ雑誌の売り上げ減少が大きいことは先に述べた。1ヶ月の読書量の平均からみれば、大学生は、雑誌よりも単行本をよく読んでいることがわかる。雑誌は、自分の好みのもの以外のマンガも載っており、自分が読みたいくないマンガについても対価を支払っていることになる。一方で、新しくおもしろいマンガやマンガ家を見つけることもある。単行本は、好きなマンガがまとまったものであるから、当然、自分が読みたいものだけを読める代わりに、新しい出会いもない。雑誌よりも単行本を読むということは、「失敗」したくない」という気持ちの表れなのかもしれない。

“失敗”を避けるという意味では、人から勧められたものは“安全”である。既に評価が定まっているからである。マンガが「好き」な大学生には、人に勧められたマンガを読むという人が多い傾向があったが、これは、この“安全”なものを効率的に求めているということかもしれない。こうして、人気作はさらに大人気作になることになるのであろうか。なお、さらに世評が高いと考えられる映像化されたマンガを読む人は少ない傾向があったことは興味深い。自分が好きなマンガ作品が映像化されることを歓迎するファンと反対するファンがいること、流行にのるようで気恥ずかしく感じられることなどがその理由ではないだろうか。マンガが「大好き」な大学生は、他と比べて雑誌を読む量が多い。「大好き」な人たちは、一言で言えば「何でも読む」のだが、「自分から積極的に新しいマンガやおもしろいマンガを探している」との回答も多い。そのようなマンガとの関わり方から、雑誌を読む人が多いのだと考えられる。

マンガを1ヶ月に読む量としては、雑誌、単行本とも「1～4冊」が最も多く、次いで「0冊」であった。その後は、有意な差はなかったが、「5～8冊」「13冊以上」「9～12冊」と続く。つまり、マンガを読まない、あるいはほとんど読まない大学生もいる反面、少数ながら、大量に読んでいる大学生もいるということになる。「13冊以上」読むのは、マンガが「大好き」な人に集中している。一方で、1ヶ月に全くマンガを読まないという人が、「嫌い」「どちらでもない」の多数を占めるのは首肯できるが、「大好き」「好き」にも少数ではあるが存在するのは意外である。マンガを読まないのにマンガ好きと自認していることになるが、やはり、この自認が何によってもたらされるのかを検討する必要がある。

雑誌と単行本との対応をみると、やはり、雑誌よりも単行本のほうがよく読まれていることがみてとれる。中程度の相関があることから、概ね雑誌を読む人は単行本も読む傾向があるといえるが、雑誌は読まないが単行本は読む人が多いのに対して、その逆、すなわち、雑誌は読むが単行本は読まない人は少ない。

マンガらしさの基準については、その記述があった人は全体の4割弱にすぎなかった。明確な、言語化できるようなマンガらしさの基準をもっている大学生は多くないということである。しかしながら、そのような人もマンガらしさの評定はできるのである。また、マンガに対する態度によって、記述の有無に差はなかった。本稿ではマンガへの態度によって、マンガとの関

わり方、マンガとの接触量が異なることが明らかになったが、こうしたことが記述内容、マンガらしさ評定に影響を及ぼしていることは充分考えられる。今後、分析を進めていく必要がある。

おわりに

マンガは、現在の大学生にも好かれている。しかしながら、実際のマンガの読み方は、人によってさまざまである。マンガを何よりも優先し、毎月大量のマンガを読む者もいれば、マンガには関心がなく、マンガを全く読まない者もいる。そして、大多数の大学生は、ほどほどにマンガと関わり、ほどほどにマンガを読んでいる。読まれているのは、単行本が多く、雑誌は少ない。マンガ雑誌の売り上げが減少し続けているのは、こうした読者の行動によるものであろう。一方で、マンガ雑誌の銘柄数は増加している。少数のマンガ多読者、いつも新しいマンガ、おもしろいマンガを探しているマンガ好きにとっては、歓迎すべき状況といえるかもしれない。

マンガへの関心、マンガとのつきあい方、マンガとの接触量、マンガの好みなどは、マンガ読解のプロセスや読み取った内容にどのような影響を与えているのだろうか。普段のマンガとのつきあい方とマンガ読解との関連を検討していくことが今後の課題である。

引用文献

- 平山祐一郎 2008 大学生の読書状況に関する教育心理学的考察 野間教育研究所紀要 第46集
- 堀薫夫・前川敦子・古谷嘉隆・塩見昇 2000 大学生の読書と電子メディア利用に関する調査研究 大阪教育大学生涯教育計画論研究室・大阪教育大学附属図書館
- 出版科学研究所 2012 出版指標年報 2012年版 出版科学研究所